



2020年10月29日

各 位

会 社 名 株式会社ダスキン
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 山村 輝治
 (コード番号：4665 東証第一部)
 問合せ先 取締役 執行役員 経営企画部長 大久保 裕行
 電話 06-6821-5071

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年10月29日開催の取締役会において、2020年6月10日付で開示した2021年3月期第2四半期累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日)及び同通期(2020年4月1日～2021年3月31日)の業績予想を下記の通り修正することとしましたのでお知らせいたします。

記

1. 修正の内容

(1) 連結業績予想数値の修正

①2021年3月期 第2四半期累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	68,030	△2,220	△1,820	△3,490	△70円74銭
今回修正予想(B)	74,100	2,800	4,000	1,400	28円38銭
増減額(B-A)	6,070	5,020	5,820	4,890	—
増減率(%)	8.9	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	79,157	3,698	4,115	2,783	54円21銭

②2021年3月期 通期(2020年4月1日～2021年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	145,900	△1,660	△510	△2,180	△44円19銭
今回修正予想(B)	149,700	1,100	3,500	600	12円16銭
増減額(B-A)	3,800	2,760	4,010	2,780	—
増減率(%)	2.6	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	159,102	6,577	7,929	5,591	109円95銭

(2) 個別業績予想数値の修正

①2021年3月期 第2四半期累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	54,630	△800	1,700	30	0円61銭
今回修正予想(B)	59,000	2,100	4,700	2,500	50円67銭
増減額(B-A)	4,370	2,900	3,000	2,470	—
増減率(%)	8.0	—	176.5	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年3月期第2四半期)	63,298	2,252	4,835	3,780	73銭61銭

②2021年3月期 通期(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	117,150	△260	3,040	1,370	27円77銭
今回修正予想(B)	120,100	△700	2,700	400	8円11銭
増減額(B-A)	2,950	△440	△340	△970	—
増減率(%)	2.5	—	△11.2	△70.8	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	127,838	3,956	7,419	5,614	110円39銭

2. 修正の理由

当社は、2020年6月10日に、その時点の業績動向に鑑み、本年9月迄は新型コロナウイルス感染症(以下、「コロナ」という。)拡大の影響を大きく受けるものの、その後6ヵ月を掛けて通常ベースに戻るものとの前提で予想した業績予想を公表いたしました。しかしながら、それ以降のコロナ影響は想定を下回る一方、7月以降、新規感染者が再び増加傾向に転じる等、コロナ終息時期は見通せない、先行きの不透明感は更に高まる状況となりました。それら状況に鑑み、この後、当下半期は第2四半期同様の傾向が継続するものと想定しております。

また、フランチャイズ本部である当社は、加盟店を守り、チェーンを維持するという最大の責務を全うするため、より高い効果を得るべく費用の使用時期を見直し、再度業績予想を行ったものであります。

(1) 第2四半期累計期間

当上半期のコロナ影響は、総じて想定を下回るものとなり、結果的に売上高は訪販グループ、フードグループ共に予想を上回る見通しとなりましたので、上方修正することといたします。

訪販グループは、積極的な営業活動ができず、加えて主力のダストコントロール事業においては、既存のお客様への商品のお届けや交換の延期・中止の発生、役務提供サービスにおいても定期サービスの一時休止、レントオール事業では相次ぐイベントの延期やキャンセル等、特に第1四半期に大きな影響を受けました。しかしながら、緊急事態宣言解除後は徐々に沈静化すると共に、除菌・衛生意識の高まりに伴って、アルコール除菌剤や空気清浄機等の衛生関連商品・サービスの売上は想定を上回るものとなりました。

一方のフードグループも、第1四半期は一時休店や営業時間短縮、更にはソーシャルディスタンス確保のための席数減等により、イートイン売上が大きく減少しました。しかしながら、コロナ禍の持ち帰り需要の増加等に伴い、テイクアウト売上は増加し、また第2四半期には、発売した商品が大きな支持を得たこと等により、結果的に、想定したほどの売上減少とはなりません。

利益面につきましては、売上の上振れによる売上総利益の上振れに加えて、広告販促費用の使用及び新商品投入について、より高い効果を得るため下半期にスライドしたこと、更には一部経費を抑制的に運用したこと等により、営業利益、経常利益、四半期純利益の各段階でそれぞれ予想を大きく上回る見込みであります。

(2) 通期

当下半期につきましてもコロナ影響は7月以降の情勢が継続するものと予想しております。そのような環境の中、費用を有効に投じて引き続き売上回復に全力を挙げてまいります。

訪販グループは、コロナ禍での“衛生対策”“イエナカ需要”“代行需要”等に対応して、9月から展開しているグループ内を横断するキャンペーンを継続しつつ、現下の状況を前向きに捉えて、衛生ブランド「ダスキ」確立のために費用を投じることを計画しており、「吸塵・吸水マット」の吸着剤を抗菌タイプに変更した商品等の販売に注力してまいります。

フードグループは、カフェテリア形式全店舗のショーケースの扉付きへの変更を進めつつ、減退するイートイン需要を刺激し、高まるテイクアウト需要を更に掻き立てる商品の発売に注力いたします。また、環境変化に対応したネット予約システムの開発等に費用を投じることを計画しております。

それらの結果、現在の公表値と比べて下半期の売上高は僅かに下振れる予想である一方、利益は大幅な下振れとなり、通期では売上高、利益とも上振れを見込んでおります。

なお、2021年3月期の配当につきましては、2020年6月10日に開示した予想の修正は行いません。第2四半期末20円、期末20円、年間合計40円の1株当たり配当を実施する予定であります。

(注) 上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、コロナの拡大又は終息の状況等、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

以上

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。

株式会社ダスキ 広報部 電話 06-6821-5006